

文化構想学科

表現文化コース

● 表現文化コースとは

現代的な視点から、文学・演劇・音楽・美術・映画・モード・漫画など雑多なジャンルやさまざまな文化現象を対象とした柔軟で斬新な研究を展開します。従来の学問的枠組にとらわれないところが魅力ですが、そのぶん苦勞もありますし、苦勞のしがいもあります。課外での創作活動を研究に取り入れ、レポート・卒論の作成やアートの実践の授業で培った経験を社会で活かすことができるのも強みの一つです。

開拓精神旺盛な表現文化コースでは、自分の関心をとことん突きつめるとともに、歴史化し相対化する姿勢が重要です。「冷たく燃える」がモットーです。

● 先生の研究

専門は19世紀後半のイギリス文化・文学、とくに唯美主義の研究です。唯美主義(aestheticism)は今では「エステ」と関係があるのかと思われませんが、当時はその刹那的快楽主義の主張ゆえに反道徳的反抗リスト教的なものとして危険視されていました。W・P・ペイターは、文体によっても毀誉褒貶をまねいた文学者です。彼が非難の声にどう対抗したのかを分析するのが近年の関心でした。また、唯美主義作品のここかしこにひそんでいる男性同性愛の表現についても研究しています。そこにあるような言語戦略があるのかを、文化的背景やほかの作品との関連をふまえて考察しています。



教授 のすえ のりゆき 野末 紀之 先生

● 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ
表現文化コースの先輩に研究の話聞いたことがきっかけです。表現文化の研究では、文献を読んでさまざまな理論を頭に入れたうえで、作品や研究対象を何度も何度も見ることで、得られた気づきを言語化していきます。先輩がそのプロセスをとっても楽しそうに語っていて、自分もこんなふうに関心のあるものに向き合いたいと思いました。

○自身の興味
まだぼんやりとしているのですが、消費者が作品を消費するときに、どのような構造があるか、ということに興味があります。特にソーシャルゲームについて興味があります。ソーシャルゲーム特有のシステムが、私たちの作品の読み取り方に影響を与えているのではと考えています。

○コースの雰囲気・特徴

表現文化コースは、1つのコースとして括られているものの、文学、映画、民話など、領域ごとさらさらに分かれているところが特徴的だと思います。いろいろな領域の授業が受けられるので、新しい視点を得られたり、別の領域との共通点を見つかったりなど、刺激を受けやすい環境にあると思います。

● 卒論タイトル例

- ・ ゾンビは日本の視覚文化においていかに創り変えられるか—マンガ・アニメ的表現による「美少女」化について—
- ・ 反日、嫌韓状況下における K-POP と日韓の反応 ~ 2010 年代の事例にみる韓流ブームの変化 ~
- ・ 服飾史の観点から見るリクルートスーツにおける黒の受容

● 表現文化コース

オススメ入門書

『全訂新版 現代文化を学ぶ人のために』(世界思想社、二〇一四)

【著者】井上俊(編)

【紹介】

都市文化の見世物性、観光学、ポピュラー音楽、マンガ、ファッション、文化と権力など、現代文化のさまざまな分野の研究のための網羅的入門書として重宝しています。インターネットやSNSをもつ見方の切り所としがちな若者に歴史的な展望を示してくれるし、各章に付された参考文献もありがたい。どれか1冊に挑戦するだけでも世界への見方が一変したり深まったりするかもしれません。適度にラフな記述や古い情報にもとづく見方がツツコミどころとなっている点も貴重。大学では、教師や有名な人の言葉を鵜呑みにせず批評的になることが求められるからです。また、限られた紙幅でやむを得ないので、いささか図式偏重の感があります。図式化への誘惑に耐え、矛盾を豊かなものとし、「例外」について思考することも学問では大切なことで、すーこれは人生でも同じですね。ともあれ一読を薦めます。(以上は、毎年の授業での学生の反応を踏まえたものです。)



3回生 あきなが めぐみ 秋永 愛美 さん

● 教員紹介

野末 紀之 教授 Noriyuki Nozue
19世紀末イギリスの文学および文化思想。『文体のポリティクス—ウォルター・ペイターの闘争とその戦略』(論創社、2018)

高島 葉子 教授 Yoko Takashima
民間説話・民間伝承の比較文化的研究。
“Successful Marriage between Kamuy and Humans in Ainu Folktales: A Comparison with Animal-Human Marriages in Northern Peoples’ Tales”, (Comparative Culture, No.124,2016)

増田 聡 教授 Satoshi Masuda
ポピュラー音楽研究、都市大衆文化研究、文化所有論(著作権、作者論など) 『聴衆をつくる—音楽批判の解体文法』(青土社、2006)

海老根 剛 准教授 Takeshi Ebine
表象文化論
「〈大衆をほぐす〉—シアトロクラーシと映画(館)」『a+a 美学研究』第12号所収、大阪大学美学研究室、2018)